



総務でできるコストダウン【Ⅱ】

第10号でお伝えしたような活動に取り組むことで、意外なものに大きなコストをかけていることが判明する事も少なくありません。

とくに総務部門では日常的に使っているコストが多い為、そのケースが多くなります。例えば、以下のような項目は、単価は低いものの、定期的が発生する費用であるため年間総額は大きく積み上がり、かつ過去にコストダウンのメスを入れているケースも少ないため盲点になっている項目だといえます。

・名刺

一般的な単価は100枚で1,000円~2,000円程度ですが、毎月のように購入するものなので年間総額は意外と高くなる傾向があります。しかし、最近では品質を落とさずに500~1,000円程度で作成できるサービスも数多くあります。名刺は過去から取引のある印刷会社に依頼しているケースが多く、その利便性から取引の見直しを検討する事の少ない分野でもあります。

・リサイクルトナー

プリンターに使用するトナーに、純正品ではなくリサイクル品を利用することで大幅なコスト削減が実現できます。リサイクルトナーは、以前は粗悪なものも多かったようですが、最近では品質も安定し、「STMC」という業界の世界品質に関する検査基準を満たす工場も増えてきたことから、利用する企業も増えてきています。現在も純正品を使用されている場合は、コスト削減効果は大きいと言えます。

・賃料

代表的な固定費である賃料ですが、コストダウンに取り組む企業は意外と多くありません。しかし、金額が大きいだけにコストダウンの対象として捉えるべき項目です。

・振込手数料

銀行取引などで負担する振込手数料は案外大きなコスト負担になっています。1回1回は数百円ですが、取引先数が多くなればなるほど振込件数が増えますので、その金額は小さな会社出もすぐに毎月数万円になってしまいます。また、取引地域が拡大すると、地方銀行、信用金庫などへの振込も増えるため、他金融機関への振込が増えて単価が極端に上がります。

これらのコストは、どの銀行でも大きく変わらないため、やむを得ない出費としているケースが多いのではないのでしょうか。しかし、振込手数料を削減するサービスを展開する会社もいくつかあります。また振込手数料を大幅に減らしたネット銀行もあります。これらを利用することで振込手数料を大幅に削減することが可能となります。

4.コストは定期的に見直すこと

コストダウンは一度取り組みれば終わりではありません。常に新しいサービスが登場する時代ですので、1年前に契約・購入したものが、今ならもっと安く利用できることも少なくありません。そのため、例示しましたコストダウンのための活動も、少なくとも2~3年に1度は総点検をすることが重量です。そのような地道な活動を繰り返すことが、全社的にコスト意識が高まっていくことにもつながり、企業体質の転換にもつながるのだといえます。

Wiz Bizより

「戦う組織の作り方」

リーダーの覚悟が、人と会社をここまで強くする

ワタミの社長 渡邊 美樹さんの著書ですが、この中の一文「可能性の限界にまで来て、組織を成長させていきたい」と考えるならば、「組織の成長に合わせて、人材も変えていく」という、一見ドライな判断が不可欠となる。「戦う組織」とは、厳しい集団でなくてはならないが、人の可能性を見切る冷たい集団であってはいけないのだ。生きるかもしれない人材を見殺しにしてはいけない。チャンスは常に与え続ける必要がある。

【書き損じたはがき】

書き損じてしまったはがきを捨ててしまいませんか？
 郵便局に持っていき、手数料5円を支払えば新しいものに変わってもらえます。何枚も書き損じが出た場合には断然お得です。
 しかし切手の部分が多量にもろれと交換してもらえない！

